

記者懇談会

HPVワクチンの最近の話題



HPVワクチン接種再開に向けての産婦人科 医会の活動と地域における草の根運動

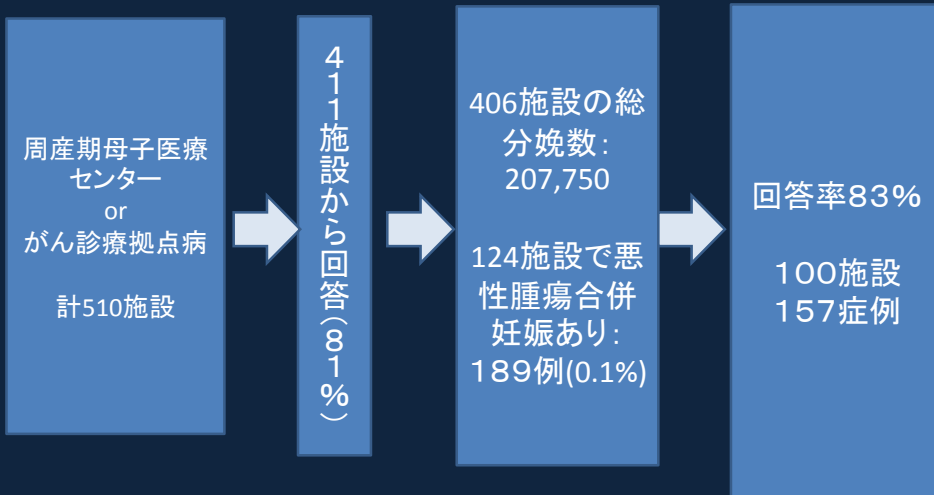
日本産婦人科医会・がん担当常務理事
新百合ヶ丘総合病院がんセンター・センター長

鈴木 光明



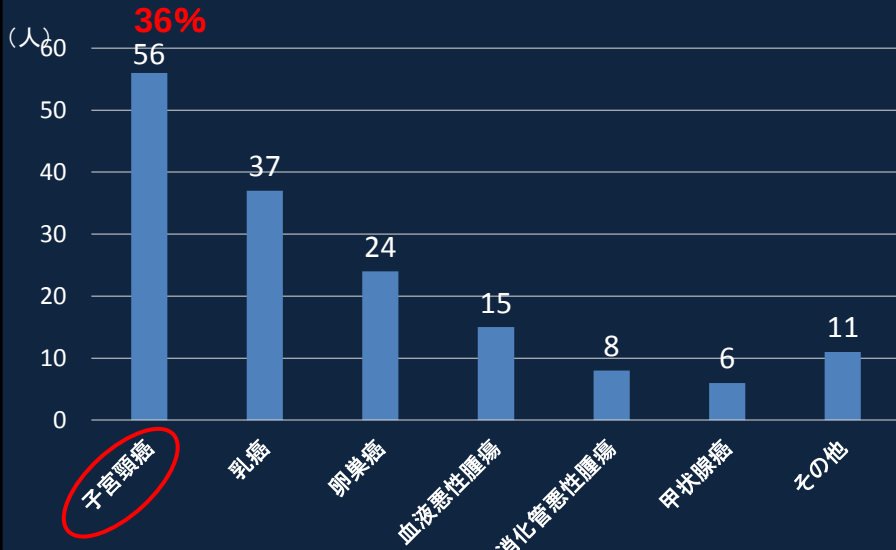
2019年7月10日 日本記者クラブ

2014年 全国妊娠合併悪性腫瘍調査



厚生労働科学研究「わが国の妊産婦死亡原因の主疾患に関する研究」池田智明班、田畑 務

悪性腫瘍合併妊娠157例



Kobayashi Y et al. Int J Clin Oncol. 2018 <https://doi.org/10.1007/s10147-018-1352x>

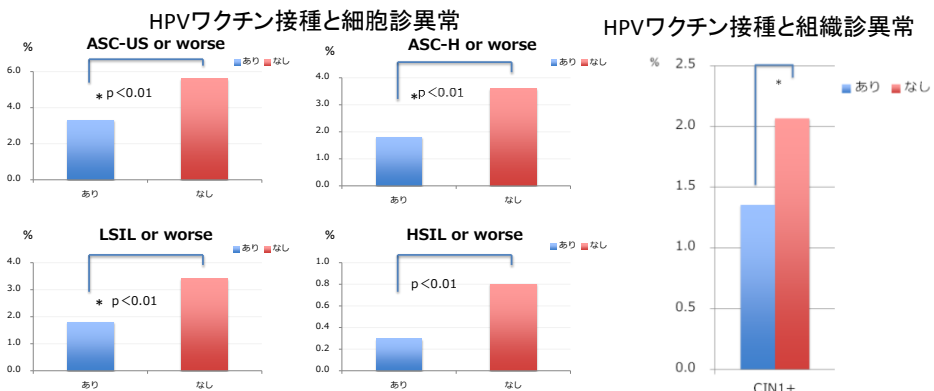
日本産婦人科医会・がん部会事業

「子宮頸がん検診結果を用いたHPVワクチンの有効性の検討」

宮城県、山梨県、徳島県、北海道、出雲市、新潟市、栃木小山地区、千葉県

HPVワクチン接種群では細胞診異常が有意に低率であった

CIN1+(組織診) が有意に低率であった



第135回関東連合産科婦人科学会 2018年6月17日

— 日本産婦人科医会の見解 —

- ✓ 日本産婦人科医会でもHPVワクチンをシンポジウムで取り上げ、科学的知見に基づく議論を進めている。
- ✓ 我が国においても、ワクチン接種世代における子宮頸部病変に対するインパクトがみられ始めている。

HPVワクチン接種後の多様な症状とワクチン接種の関係を科学的に証明するエビデンスは確立されていない。

公益社団法人日本産婦人科医会は、HPV ワクチンの積極的な接種勧奨が早期に再開されることを強く要望する。

(公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下勝之、
がん部会担当常務理事 鈴木光明

平成28年12月8日、日本産婦人科医会ホームページにて発信)

アイルランドにおけるHPVワクチン接種率回復を達成した要因（アクション）

• 団体としての活動

- **Liaison** (The Irish Cancer Society, National Cancer Screening Service, Professional bodies, Department of Education/ Schools , National Parents Councils, Politicians, Global)
- **Coalition**

• 専門家へのトレーニング

- Priorities immunization in healthcare education
- opportunistic education sessions > 2500 in 2016
- Fact sheets/ articles in journals/ICGP e-Learning modules
- Pharmacies



• 母親への情報提供

• 政治的なサポート



<https://www.uantwerpen.be/images/uantwerpen/container39248/files/2017%20Dublin/Dubl402Corcoran.pdf>

The Irish Times

'Uninformed nonsense' about HPV vaccine is endangering lives

<https://www.irishtimes.com/news/ireland/irish-news/uninformed-nonsense-about-hpv-vaccine-is-endangering-lives-1.3058014>

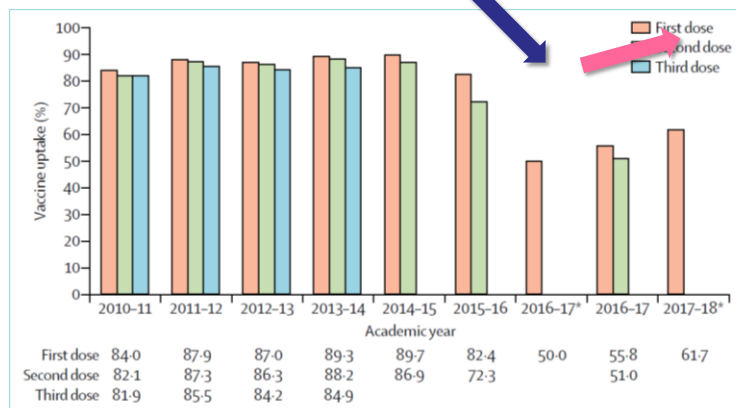
Simon Harris保健省大臣 による強いメッセージ



- HPVワクチンの安全性に関する「根拠のない暴論」は命を救うための医学的な取り組みを妨害している。
- 私は、ワクチンに関するアドバイスをソーシャルメディアからではなく、欧州医薬品庁（EMA）や世界保健機関（WHO）から得ている。
- ワクチンに関するアドバイスをしたいのなら、医師になるか、そうでなければ公衆衛生政策に口をだすな。

アイルランドにおける接種率回復

Rapid response to HPV vaccination crisis in Ireland



2010年より学校接種で実施され80%を超えていたHPVワクチン接種率が、2015年の反ワクチン団体などのメディアを駆使した活動により、ワクチンに対する安全性への不安の声が高まり、接種率は50%まで下がった。

その後、「HPVワクチンの重要性」を直接保護者に伝えるため、多くの関連団体が素早く対応し、WHOやデンマーク、欧州等との連携により、61.7%までに回復している。

Brenda Corcoran, Anna Clarke, Tom Barrett
: Lancet 391;2103, 2018

接種再開に向けての産婦人科医会の活動 ならびに地域における草の根運動

- ✓ 日本産婦人科医会主催・全国普及活動
- ✓ 静岡県小児科医会・予防接種協議会の取り組み
- ✓ 岡山県子宮頸がん予防事業
- ✓ 栃木県小山地区医師会の取り組み

✓ 日本産婦人科医会主催・全国普及活動

「子宮頸がんをなくそう！」 — 子宮頸がんワクチンの正しい知識の普及活動 —

実 施 要 領

1 開催目的

子宮頸がんを予防するHPVワクチンの有効性安全性については、世界中から科学的なエビデンスが発表され、WHOや世界各国の子宮頸がん予防ガイドラインでは必須の手段とされているにもかかわらず、本邦では、接種の勧奨が差し控えられているのが現状である。また接種開始後の疫学データも接種を積極的に行っている国では、若年者の頸がんや前がん状態、あるいは将来子宮頸がんのハイリスクであるHPV感染者が、ワクチン接種によって減少をはじめているという報告がなされている。

一方、本邦では子宮頸がんの罹患率や死亡率が増加しており、数少ない「頸がん対策後進国」となっており、早急な対策が必要である。

そこで、子宮頸がんは、がんの中でもワクチンにより予防することができる数少ないがんの一つであることから、教わる命を守るため、子宮頸がんワクチンや子宮頸がん検診について、社会の理解促進、醸成を目指すことを目的に、本会と各都道府県産婦人科医会の共催で、各都道府県単位で順次、正しい情報を広く国民に周知するための国民向け知識普及活動を開催するものである。

2 活動期間

平成30年4月から平成32年3月までの2年間（延長あり）

3 対象者

小学生、中学生のお嬢さんを持つ母親など一般、**養護教諭、スクールカウンセラー、保健師、医療関係者、自治体関係者、情報関係者**など

4 参加費

原則無料

5 開催場所

各都道府県

6 主催・共催

公益社団法人 **日本産婦人科医会** 及び **各都道府県産婦人科医会**

7 後援

公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本産科婦人科学会
公益社団法人日本小児科医会
公益社団法人日本小児科学会
公益社団法人日本看護協会
予防接種推進専門協議会

独立したアカデミアの立場から必要な
情報を伝える！



市民公開講座

「子宮頸がんをなくそう！」

—子宮頸がんワクチンの正しい知識の普及活動—日本産婦人科医会

宮城県 2019年2月24日(参加者:127名(産婦人科医94名・小児科医8名・一般(養護教諭含25名))

茨城県 2018年5月20日(参加者:230名(学生62名、医師32名、一般49名、

看護師・保健師・助産師75名、その他)

栃木県 2018年11月18日(参加者:174名(産婦人科医105名、小児科医28名、

他科28名、養護教諭5名、行政8名)

群馬県 2018年11月3日(参加者:74名(医師22名、行政9名、一般その他43名)

埼玉県 2018年4月22日(参加者:207名(養護教諭・行政10数名づつ含)

千葉県 2018年3月2日(参加者:118名(産婦人科医14名・その他104名)

東京都 2019年4月9日(参加者:114名(産婦人科医39名、小児科医4名、他科3名、

医療関係者21名、一般42名、養護教諭1名、行政4名)

神奈川県 2018年10月21日(参加者:98名(医師、学校関係者、行政、一般等)

静岡県 2019年3月9日(参加者:104名(産婦人科医22名、小児科医37名、他科医師3名、

医療関係者・企業22名、その他))

石川県 2019年5月26日(参加者:約100名(産婦人科医17名、小児科医7名、行政2名、

学校関係者12名、その他)

福井県 2019年3月9日(参加者85名(産婦人科医10名程度、内科医1名、

行政(健康増進担当者ならびに保健師等7〜8割)

香川県 2019年6月1日(参加者:63名(産婦人科医50名、小児科医8名、行政5名)

今後の予定:岩手県、山形県、福島県、山梨県、長野県、福岡県、佐賀県、長崎県など

✓ 静岡県小児科医会・予防接種協議会の取り組み

静岡県小児科医会・予防接種協議会「HPVワクチン接種推進プロジェクト(仮称)」



田中 敏博先生 : 静岡県小児科医会 予防接種協議会
JA静岡厚生連 静岡厚生病院 小児科

HPVシンポジウム

日時: 2019年3月9日(土) 開場 15:30 開演 16:00

会場: 静岡市静岡医師会館 3階 講堂

※当初の予定より変更となりましたので、ご注意ください。

〒420-8603 静岡市葵区東草深町3-27

TEL: 054-245-6136

※駐車場に限りがありますので、公共交通機関のご

利用をお願いいたします。

テーマ:「HPVシンポジウム」〜いかに理解を深めるか〜

対象: 医師、看護師、養護教諭、ほか

参加費: 無料(ただし、事前申込が必要)

取得可能単位: 専門医制度 II) 専門医共通講習 1単位

日本医師会 生涯教育講座 3単位

主催: 静岡県小児科医会 予防接種協議会

共催: 静岡県産婦人科医会

✓岡山県子宮頸がん予防新規事業

子宮頸癌ゼロプロジェクト岡山



- 岡山県産婦人科医会主導で
県保健福祉部の協力を得る
- 子宮頸がん予防対策事業 予算(360万円/3年)計上



✓栃木県小山地区医師会の取り組み

- 2市1町:小山市、下野市、野木町
- 地区医師会主導で活動開始

小山市医師会理事・佐山雅昭先生(産婦人科開業医)



HPVワクチン接種再開にむけて- summary-

- ◆接種回復にはアカデミアに加え、メディア、政治的サポート等、国をあげて取り組む必要がある。
- ◆日本ではとくにメディアの壁が厚く、国民に十分な情報が届いていない。
アカデミアはメディアと協力して、科学的根拠に基づいた情報を分かりやすく届ける必要がある。
- ◆情報の発信にあたっては、コミュニケーションのあり方・手段を考慮する必要がある。
 - データの積み上げばかりでなく、「説得」から「共感」へ
 - テレビ・新聞に加え、インターネット(PC, スマートフォン等)による情報伝達が必要
- ◆実質的活動としては地域でのネットワークづくりが有用。

